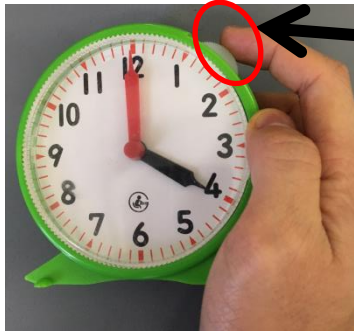



大項目	時計
小項目	時計に親しむ
タイトル (教材名)	時計の模型
目的 身につけてほしい力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時計に親しむ ・ 短針と長針を意識して時刻を合わせることができる ・ 時刻の読み方に慣れる
教材の概要	○写真のような教材「時計の模型」を用意する。小学校の算数の授業で使用されている場合もある。インターネットでも購入できる。
材料 作り方 工夫点など 画像	 <div data-bbox="933 705 1348 929" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>白いダイヤルがついています。くるくる回して針を時計回り、反時計回りの両方に動かすことができます。</p> </div> <p>○指導者用の大きな時計の模型を用意する。無い場合は、児童生徒が使用する模型と同様のものを用意する。</p>
教材の使用方法	<p>①指導者用の模型を児童生徒の見えやすい位置に置く。</p> <p>②生活の中での活動と時刻が結びつくものを探す。</p> <div data-bbox="459 1258 890 1444" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>例 9時00分→授業が始まる時刻 12時00分→給食の時刻 3時15分→下校する時刻</p> </div> <div data-bbox="901 1243 1053 1310" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>指導者用</p> </div> <div data-bbox="901 1422 1053 1489" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>児童生徒用</p> </div>  <p>③②で挙げた時刻を指導者が時計の模型で示し、それを見て児童生徒が自分の模型で時刻を合わせる。その際に、指導者が「短い針（短針）が9、長い針（長針）が12のところに来るようにあわせませう。」と短針と長針を意識できるように、指で針をさして言葉がけをする。</p> <p>④時刻が合わせられたら、指導者が針を指でさして「くじ」と読み、後に続いて児童生徒が読むように促す。（時計を読むことではなく、時刻の読み方に慣れることを目的としている。）</p>
その他	繰り返し学習していくことで、短針と長針を意識して時刻が合わせられるようになる。